

埼玉県立 小児医療センターだより

●埼玉県立小児医療センター

〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2

Tel▷048-601-2200(代表) Fax▷048-601-2201 E-mail▷scmc@saitama-pho.jp

URL▷https://www.saitama-pho.jp/scm-c/index.html



埼玉県マスコット「コバトン」

新型コロナウイルス感染に負けない

病院長 **おか 岡** **あきら 明**



2020年から始まった新型コロナウイルス感染症の流行により、子どもの生活や医療も大きな影響を受けることになりました。新型コロナウイルスが感染した小児の多くは、幸いにも軽症・無症状でしたが、オミクロン株の流行以降は少し状況が変わってきました。クループの様な気道症状や比較的年齢の高い有熱時けいれんも散見される様になり、さらには急性脳症で亡くなられた小児例も報告されてきております。

今後、新型コロナウイルス感染拡大の状況がどの様になるのか注視していかねばなりません。現時点では幼児向けのワクチンがない状況ですし、5歳以上でもワクチンの接種の普及には時間がかかりそうです。新型コロナウイルス流行の当初に感染が問題となった成人・高齢者でのワクチン接種が一定程度進んできている中で、今後は新型コロナウイルスに対する免疫力を持たない小児人口の中で一定の流行が続く可能性も指摘されています。子どもはそもそも発熱や上気道症状の機会が多く、引き続き新型コロナウイルスへの感染対策をしながら対応を求められることにもなりそうです。

さて、ソーシャルディスタンスをとり、マスク・手洗いなどの感染対策を励行していることで、子どもの他のウイルス感染症が減少しています。インフルエンザは、2020年以降は流行をしておりませんし、夏場に流行する夏風邪ウイルスによる感染も2020年以降は激減しております。これは、良い点もありますが、多くの子どもたちがこうしたウイルスへの自然免疫を獲得していないことは、気がかりです。2021年夏にRSウイルスがこれまでにない流行をしたことは、記憶に新しいことです。これは、2020年にRSウイルス感染が広がらなかったことも影響しているのかもしれませんが、同様に、新型コロナウイルス以外のウイルス感染が今後流行する可能性は、誰にも否定できないところです。特にインフルエンザの様な毒性の強いウイルスが大流行すると、子ども達にも様々な合併症を起こしますので、これは心配な状況と言えるかと思えます。

また、新型コロナウイルス感染流行下での生活の変化は、子ども達の心の面での健康状態に、大きな影響を与えています。例えば学童思春期の子ども達の中で、うつ状態などのメンタルヘルス上の問題を抱える子どもが増加しています。これは日本だけの状況ではなく、海外でも同様で、アメリカ小児科学会は2021年の秋に、子どもや思春期のメンタルヘルスの緊急事態を宣言しています。メンタルヘルスに問題のある子ども達は様々な症状を訴えてきます。大人や小児医療関係者は、そうした子どもの精神状態を理解し対応していく必要があります。

当センターとしては、今後も地域の医療機関の皆様と協力しながら、新型コロナウイルスの感染の流行の状況にも対応しながら、小児の救急医療、三次医療を維持していきたいと思えます。また、新生児周産期医療や、高度医療など、常に県民の皆様に必要な医療を提供する体制も維持して参りたいと思えますので、引き続きよろしくお願いたします。

埼玉県立小児医療センターだより 第23号 ご案内

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| ○ 病院長あいさつ…………… p. 1 | ○ TQM 推進室の紹介…………… p. 5 |
| ○ 集中治療科の紹介…………… p. 2 | ○ お知らせ |
| ○ 臨床検査科の紹介…………… p. 3 | 受診の案内 |
| ○ PICU・HCUの紹介…………… p. 4 | 病院へのアクセス…………… p. 6 |

<診療部門紹介>

集中治療科

科長 **新津 健裕**

平成28年度の病院移転に伴い小児急性期医療に関わる機能の拡充が行われ、小児救命救急センターの指定を受けました。小児救命救急センターは、24時間体制で重篤な救急患者の受け入れを行う救急外来（ER）、小児集中治療室（PICU）および準集中治療室（HCU）で構成され、救急診療科、集中治療科、外傷診療科の3科により運営され、24時間体制の救命救急医療や周術期管理を中心とした急性期医療に関わっております。

本項ではこのうちの「集中治療科」としての診療についてご説明致します。

○診療内容

集中治療科は、小児集中治療室（PICU）にて、生命に関わる重篤な状態に陥っている患者に対し迅速かつ的確な高度救急医療を提供します。集中治療科の診療の柱は以下の3つのカテゴリーです。

- 1 埼玉県内全域および隣接地域の小児の3次・救命救急医療
- 2 開心術等大規模な手術を受ける患者の周術期管理
- 3 院内患者の重症急変時の集中治療および院内危機管理（院内心停止への対応やRRS）

内因系・外因系を問わず、あらゆる疾患および病態に対応する総合診療医（Generalist）として、また、全身管理の専門医（Specialist）として、埼玉県および隣接地域の重症小児の診療の役割を担っています。

24時間365日、院外からの重症患者の受入要請に対応しており、搬送にリスクを伴うと判断した場合に、当院PICUスタッフによる搬送チームが依頼先病院へ出向いて「迎え搬送」を行い、院外からの紹介も積極的に受け入れています。

注：RRS（Rapid Response System）とは、あらかじめバイタルサインの異常などの基準を決め、その基準に抵触した場合は、医療者は誰でも、主治医を介さず直接RRS対応チームを呼び、迅速な介入により院内心停止を防ぐ仕組みです。

○先進医療・特殊医療

- ▷ 呼吸管理
高流量経鼻カニューラ酸素療法（HFNC）、非侵襲的陽圧換気、高頻度振動換気、気道圧開放換気、一酸化窒素吸入療法、体外式膜型人工肺（ECMO）
- ▷ 急性血液浄化療法
持続的血液濾過透析（CHDF）、血液透析、腹膜透析、血漿交換
- ▷ 循環管理
体外式膜型人工肺（ECMO）
- ▷ 中枢神経管理
頭蓋内圧・脳温モニタリング、低体温療法

○対象疾患

各種臓器不全・重症病態

- ・ 緊急気道（クループ、喉頭・気管狭窄、気道異物、顔面外傷～各種の挿管困難等）
- ・ 呼吸不全（細気管支炎、重症肺炎、喘息重積、急性呼吸

窮迫症候群：ARDS等）

- ・ 循環不全（ショック、劇症型心筋炎、心筋症、重症心不全、不整脈等）
- ・ 中枢神経障害（けいれん重積、急性脳炎脳症、頭蓋内出血、蘇生後脳症等）
- ・ 急性腎不全、急性肝不全、代謝内分分泌疾患（先天代謝異常症の急性増悪、糖尿病性ケトアシドーシス等）、重症感染症（敗血症等）
- ・ 外因性疾患（窒息、溺水、熱傷、頭部外傷、多発外傷、薬物中毒、心停止等）

周術期管理

- ・ 心臓血管外科による開心術・非開心術の周術期管理（先天性心疾患）
- ・ 小児外科、移植外科、脳神経外科、形成外科、耳鼻咽喉科、整形外科等による手術の周術期管理
- ・ その他、周術期に人工呼吸やモニタリングを必要とする重症症例

○治療方針

集中治療室には、小児の集中治療の専門医が24時間体制で常駐し、主治医として全ての患者に責任を持った診療を行います。元からの主治医のいる患者、手術の執刀医のいる患者についてはそれらの医師と緊密に連携し、共同で診療を行います。そして生命に関わる重篤な状態を脱し、一般病床に出られる状態に回復するまで診療します。

質の高い集中治療を安全に実践し、お子様本人やご家族の苦痛・不安をなるべく軽減できるように、集中治療科医師のみならず関連する診療科医師やPICU・HCU看護師、臨床工学技士、理学療法士、病棟薬剤師、ソーシャルワーカー、チャイルドライフスペシャリストなどの関連職種と密に連携を取り、共にチーム一丸となって努力して行きます。

○院外の皆様とのつながり

生命の危機に関わるような重篤な状態の救急患者さんを診療されている場合は、24時間いつでも当科までご連絡いただければ、ドクターカーを使った依頼元医療機関への迎え搬送も含めて、対応いたします（既に診断がついており、状態が安定している場合は、従来通り当院の各診療科へご相談ください）。

また、救急診療科、集中治療科、外傷診療科では、小児の救命救急・集中治療の研鑽を積みたい医師を募集しています。随時、見学・相談が可能です。興味のある方は、下記のEメールアドレスまでご連絡ください。

埼玉県立小児医療センター 救急診療科 科長兼部長
植田育也
E-mail : ueta.ikuya@saitama-pho.jp



<診療部門紹介>

臨床検査科



すぎやま まさひこ
科長 杉山 正彦

病院などで血液検査や検尿をされたことのある方もいらっしゃるかと思います。それが、臨床検査です。臨床検査は、患者さんから採取した血液や尿、便、細胞などを調べる「検体検査」と、心電図や脳波などの患者さん自身を直接調べる「生体検査（生理機能検査）」の大きく2つに分けられます。臨床検査は病気の診断、治療に対して客観的な評価をするのに役に立ちます。特に、自分の症状を十分に説明することが難しいお子さんにとって、臨床検査は診断、治療の要といえます。当科は検査技術部の技師さん達と協力して迅速で質の高い検査結果を臨床の先生方に提供することを目的としています。

「検体検査」、「生体検査」はそれぞれいくつかの検査に分けられます。

検体検査

血液検査 貧血、血液疾患の診断。凝固（血液を固める能力）異常の診断をします。

生化学・免疫検査 血液中の成分を調べる検査です。生化学検査では肝機能や腎機能などの評価、免疫血清検査では感染症、腫瘍マーカーなどを評価します。

一般検査 尿、便、髄液など様々な検体を対象に検査します。

輸血検査 輸血時に副作用が出ないように検査します。また、血液製剤の保管、管理もします。

細菌検査 患者さんの喀痰、尿、便、血液などの検体から病気を引き起こしている細菌などの微生物を検出し、どのような抗菌薬が効くか調べます。

マス・スクリーニング検査 心身障害を発症するとされる内分泌疾患や代謝疾患を新生児期に検査・診断し、発症予防に努めます。

遺伝検査 遺伝科と連携して行います。

生体検査

負荷心電図、ホルター心電図などを含む心電図検査、心エコー、脳波検査、呼吸機能検査、聴覚検査などがあります。

上記の検査を日々行い、特に緊急を要する検査は24時間365日対応しています。

当院検査部では検査データが国際基準を満たしていることを認める「ISO15189認定」を令和元年度に取得しました。これは当院の検査結果は信頼性が高く、国際的に通用するものであることを証明するものです。

また、臨床検査適正化委員会を定期的で開催し、臨床検査が適正に行われているかを判断し、必要に応じて適正化の対策や指導を行っています。

お子さんが安心して検査を受けることができる体制を継続していきますので、今後ともよろしくお願いたします。



<看護部紹介>



PICU・HCU

師長 ^{は せ が わ く み こ}
長谷川久美子

師長 ^{まつなが さちこ}
松永 幸子

4 A病棟 PICU（小児集中治療室）

病床は14床で、心臓外科・循環器科の患者さんが入室するP1（5床）と外科や脳外科などの術後の患者さんや内科系の患者さんが入室するP2（9床）のエリアに分かれています。

総合周産期母子医療センターとの連携を行っており、さいたま赤十字病院で生まれた赤ちゃんの術直後の受け入れも行っています。

また、重症患者の受け入れ要請に24時間365日対応しています。救急車で搬送中に状態が悪化する可能性のある患者さんは、医師と看護師が同乗して迎えに行く対応も行っています。各専門分野の医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士、保育士など様々なスタッフとともに集中治療を必要とする患者さんの回復する力を支援しています。



迎え搬送に行くときの様子です

4 B病棟 HCU（準集中治療室）

病床は20床で、HCU1（13床）とHCU2（7床）に分かれています。入室する対象の患者さんは心臓外科を除きPICUとほぼ同じですが、PICUと一般病棟の中間的な役割を担っています。PICUから回復しつつある患者さん、または一般病棟から状態が不安定になった患者さん、救急外来からの救急患者などを一手に受け入れており、各部署を結ぶ拠点となっています。緊急入院の約7割は夜間入院となっており、地域の小児救急を支え、こどもと家族が安心して医療を受けられる小児救命救急センターの役割の一部を担っています。また、近年ではCOVID-19対応の最前線の病棟として、感染対策にも力を入れています。

急性期から慢性期の看護や在宅支援などの多岐に渡った知識や技術が求められるため、こどもと家族のためにスタッフ一同、日々頑張っています。



病棟入口



救急車に乗って迎えに行きます



病室
窓には季節の飾り付けをしています

<コ・メディカル部門紹介>

TQM 推進室



室長（副病院長） **おぐま えいじ** 小 熊 栄 二

TQM 推進室

埼玉県立小児医療センターでは、医療の質を継続的に向上させることを大切に考えています。そのための企画や支援を行うための組織として、平成31年4月にTQM推進室を設置しました。TQMとは、全員・全体（Total）で、医療・サービスの質（Quality）を、継続的に向上させる（Management）ことを示しています。

QC 活動

職員全体がそれぞれの部署で質改善活動を行っていくため、埼玉県立小児医療センターTQM推進室では「QC活動」の手法を導入しています。

医療現場におけるQC（Quality Control）とは、医療の品質保証と質を向上させるための品質管理活動を意味しています。

TQM推進室では、院内の各セクションがQC活動を行っていくための手がかりや刺激を受けられるよう、「講演会の開催」「報告会の企画」「広報誌の発行」などを行っています。



講演会の要点や、取組事例を掲示板で紹介しています



優秀な取組の表彰を行いました

令和3年度の取組事例

令和3年度は、各診療科、各病棟、各コメディカル、事務部門のそれぞれで改善活動が行われました。

医療的な専門性の深い取組から、日常の些細な改善など、大小さまざまな取組が実施されました。

大きな改善に目が奪われがちですが、職員全体での質改善活動を継続的に続けていくため、TQM推進室では小さく日常的な改善にもしっかりと注目し、病院全体での改善活動を盛り上げています。

令和3年度に行われた取組事例

スマートに片づけて 物品紛失を減らそう 耳鼻咽喉科 外来

改善前

1日の受診者数が多く、細かい物品を多く使用するため、物品の紛失や、物品探しに時間を消費！

使用した物は、一つの膿盆にまとめている

鋼製小物 衛生材料

分類ごとに片付け場所を設定

鋼製小物入れ 衛生材料入れ

改善後

一つの小さな膿盆に置いて、後で振り分けていたものを、最初から分類ごとに片付け場所を決める方式に改め、物品紛失や搜索のロスを大幅に削減！

現場へ急げ！ホットライン入電から出発までの時間短縮 PICU病棟 集中治療科 救急診療科 外傷診療科

職種ごとの業務フローを作成して、空白の時間があることを発見。「ID作成」と「搬送物品の準備」について改善を行い、入電～出発までの平均時間を3分短縮！

お迎え搬送 業務フロー

【現状】

時間(分)	管理CV	搬送CV	リーダーNs	搬送Ns	事務
0					入電
1		患者対応			
2		申し送り			
3	電話対応				
4			情報収集		
5				物品準備	
6				1.5分	
7					
8					
9					
10	緊急申し送り		患者情報伝達		
11					
12	搬送前最終決定				
13					空白の時間？
14					
15					
16					
17					
18	搬送前				
19	搬送完了				
20					
21					
22					
23					
24					出発

お知らせ

ドナルド・マクドナルド・ハウスさいたま 「シェアハート便」のご案内

毎月第2・4水曜日、2F病棟エレベーター入口にて、ご寄贈いただいた文具や飲料、子供向けの帽子やボランティアさん手作りのグッズを入院中のお子さんとそのご家族にプレゼントしています。

ご家族からは「気にかけて下さる方や企業さんがいるんだなあ、と思うと気持ちが明るくなりました！」などのお声をいただいています。



まだまだこれからですが、病院の情報をたくさん発信していきます。
みなさま、チャンネル登録をお願いします！



YouTube
開設しました!!

埼玉県立小児医療センター
公式YouTubeチャンネル



医療機関の皆様へ 受診のご案内

①患者ご家族からのご予約



②医療機関の先生からのご予約・お問い合わせ



病院へのアクセス



■公共交通機関をご利用の方

- ・JR 京浜東北線、宇都宮線、高崎線「さいたま新都心駅」から徒歩約5分
- ・JR 埼京線「北与野駅」から徒歩約6分
- ※歩行者用デッキを点線に沿ってお進みください。

■お車をご利用の方

- ・駐車場は有料になります。
- ・機械式駐車場には車両のサイズの制限があります。
- ※ご利用の時間帯によっては、車両が集中し、入庫まで大変お時間がかかることが予想されます。
- できるだけ、公共交通機関のご利用をお願いいたします。

埼玉県立小児医療センターだより第23号
令和4年7月発行
編集・発行 埼玉県立小児医療センター
地域連携・相談支援センター